

第53回市民ふれあいトーク =一緒に考える このまちの地域力=

日時 平成26年5月31日 14:00~15:30

場所 下津井公民館

要約版

市長

皆さんこんにちは。土曜日の午後のお忙しい時間帯にこの市民ふれあいトークにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。地域の皆さんに日頃から大変お世話になっておりまして、今日は53回目で前回この公民館で市民ふれあいトークを開催したのが、平成23年の東日本大震災のちょっと前だったと思います。3年ぶりにこちらに伺いました。実はこの間、大学、子育て、文化観光とかテーマごとに行ってきまして、再度中学校区の公民館の市民ふれあいトークをもう1回やろうということになりましたので、最初の会になります。どこの公民館、中学校区からにしようかと思ったんですけど、今年、瀬戸内海国立公園80周年なので、この下津井の地から始めたいと思い、地元の皆さんにご相談をしましたところ、今日は大丈夫ということで大変ありがとうございます。

今日初めてご参加の方もいらっしゃると思いますので、どんな感じで進むかということ、最初に私の方から15分位市の状況とか児島の状況とかをお話しして、意見交換という形で発表とか、お話をしていただければありがたいと思っております。

前回この公民館に伺いました時に、印象に残っておりますのは、児島の市民病院を何とかしてもらいたいと多くの皆さんに言っていただいた覚えがあります。私も市長に就任してから、児島の市民病院について、お医者さんの再度の確保でありますとか、当時は建て替えのことについて、皆さんが非常に熱意をもって、なんとかしなきゃあとということ言っていたので、その時にはどうするかということ、はっきり申し上げられなかったんですが、そこからほどなくして、建て替えの計画を作っていきますよということを発表して、大変な赤字で、先生がいらっしやなくて、色々手を尽くしまして、岡大の方から安定的に、本当にいい先生に来ていただけるようになりました。目途が段々ついてきて、何億円も毎年赤字だったものが一応黒字になり、このままいけば建て替えもいけるんじゃないかということで計画を出し、25年度と26年度で設計をするようにしております。できれば27年度から建築工事に入って、29年度中、つまり今から3年位で新しい病院に建て替わるよということ。ご存知のように今の病院の横の駐車場の所に新しいのを建てる予定でございますので、今のままで病院を稼働しながら、建てて引っ越すというような形思っております。産婦人科の再開をということでその時も言っていたので、未だ病院でお産の再開自体は、そこまではいけていないんですが、去年4月から岡大から大変優秀な産婦人科の先生を、一人ですけど、一人だとまだお産の再開はできないんですけど、来ていただき、来るべき産婦人科のお産の再開に向けて妊婦健診の準備を始めたり、建て替わるときの産婦人科の設計とかも一緒に加わってもらったりということで、一応着々と再開に向けていっているところでございます。ここが皆さんが一番ご心配していただいたことだと思いますが、何とか前に進んでいるような状況でございます。

それから、前回の時に下津井の消防出張所の所に救急車の良い分を是非入れてもらいたいというお話を頂きまして、その後新しい高規格救急車というのが入っておりますので、よくなっているということがございます。

色々上げればきりがないですが、この下津井、鷺羽山の振興で私が決意表明みたいにしてその時に言ったので、自分としても実現して嬉しかったなと思っておりますのが、楽天の誘致のことでございます。鷺羽山の展望台がもちろん国立公園でございますので、眺めも良く、かつパワースポットであるということで、当時から非常に注目されていたんですが、それを今もう一つ全国からよく知ってもらえるように、その時に私が決意表明で、是非とも楽天ゴールデンイーグルスの誘致をしたいということを言いました。もちろん阪神ファンの方もたくさんいると思いますけど、楽天ゴールデンイーグルスでございますので、イーグルは鷺です。鷺が羽ばたく山ですから、ここに楽天ゴールデンイーグルス、ちょうど星野監督が監督になられた時、鷺が羽ばたく山がある倉敷市にキャンプに来て、選手に来てもらい、何年かの内に優勝してもらったら、この地も有名になるんじゃないかということと、楽天の方にも誘致の話をする時に、倉敷市は鷺が羽ばたく山ですよと、一生懸命言っていて誘致をいたしました。もちろん星野監督が乗り気だったんですけど、球団の社長さんだとか、三木谷楽天の社長さんも非常に縁起がいいと思ってくださって、23年の秋から倉敷のマスカット球場にキャンプに来ていただけるようになり、楽天の選手にもこの鷺羽山に来てもらってイベントをいたしまして、それから3年目の去年に優勝してくれました。大変嬉しかったわけですが、その優勝の前に、これから頑張ってくれそうな時、去年の夏、仙台のクリネックススタジアム当時、倉敷市から50人くらい募って行ったんです。その時に倉敷、星野監督の地元の市長が来ているということで、球場で挨拶をさせてもらいまして、今の話をいたしました。鷺が羽ばたく地ですから、絶対に良いようにいきたいと思いますので、皆で頑張りましょうということを言い、仙台の皆さんも良い印象を持っていただいて、めでたく優勝をしたということです。今年はまだ低迷しておりますけれど、頑張ってもらいたいなと、今年も応援にと思っております。それが一つ実現できたのがよかったなと思っております。

今年何と言っても国立公園80周年記念でございます。3月16日に記念式典をしたわけですが、式典をしたということだけではなく、この年をきっかけにして更に我々の場所が有名になっていくように、高松とか、広島も一生懸命頑張っていってほしいなと思っております。色んな面でPRをするということも含まれているんですけど、本当に地元の皆さんにはトライアスロンのことでも大変お世話になっており、今年が4回目になりますけれど、毎回、大体全国から600人くらい来てくださりまして、非常にトライアスロンの大会の中では評価が高く、以前地元の皆さんが行っていただいている時から、引き続いてこの場所が良いということを皆さん言っていたいております。本当に皆さんのお陰であると思っております。

この児島地区全体ということですが、前回参りました時から児島の市民交流センターがオープンをいたしました。図書館もオープンいたしました。オープンが平成23年の10月ですので、その頃から準備を進めていたんですが、細かいお話を確かいただいたと思いますけれども、図書館の本があまり充実してなかったり、郷土のことがもっと分かるようなコーナーを設けてもらいたいというお話をいただき、23年オープンをします時に、郷土の児島コーナーというところを設けるようにして、2000冊ぐらい地元の歴史とか、地理とかが分かるようなものを中心として置いたりしておりますし、本の数もこれまでの児島図書館は倉敷市の中でも開架できる面積が狭かった、少なかったんですけど、今は倉

敷の中央図書館の次に大きな図書館になり、利用も大変いただいております。

児島市民交流センターのジーンズホールも、非常にジーンズのまち、繊維のまち児島ということで、多くの方に視察をいただいたり、色んな面で前回からは少しずつ進歩できているかと思えますけれど、その後色々思いますところで、全国の中で出張しましたり、他の市からお話をしたりする中、やはりこの瀬戸内海地方の美しさ、景観の良さ、鷺羽山の展望台から見る景観、王子が岳も勿論でございます。これは何物にも代えがたいものであると思えますし、もっと市としてもPRをしないとイケない。その大きなきっかけに今年80周年をしたいと思っております。それから郷土には素晴らしい下津井節も勿論ございますし、タコ塩焼きそば、タコ飯も非常に人気を博しておりますので、そういう面でも頑張っていきたいと思っております。

4月、5月のゴールデンウィークで、岡山県内で一番人出が多かったのは、実は駅前でありました繊維のまち児島フェスティバルです。二日間で18万人でハートランド倉敷の美観地区よりもお祭りに来られた人数が多かったということであります。全国からもよりたくさん来られておりますので、そういう機会を通じPRしていければなと思っております。

本当に色々課題があります。皆さんが今年80周年に向けて、もうちょっとこういうところをPRした方がいいとか、この児島、下津井の観光、産業のためにこういうことをやったらいいじゃないとか、それからこのまちの地域力を伸ばすためにどうすればいいんかということで、アイデアをいただければ、ありがたいのでよろしく願いいたします。

参加者Aさん

私は今、かつてありました吹上という地区の古いお宅に美術館があったんですけど、そこが今閉鎖されておまして、そこをお借りして新たに美術館活動をしようとしている者の一人です。その活動自体は私が頑張ればいいんですけど、一つ提案があります。総務省が地域おこし協力隊というのをしていますけれど、この地域にそういった制度を使って、協力隊の優秀なメンバーが来て下さるとありがたいなあと思っております。と言いますが、市長はある程度把握されていると思うんですが、下津井は過疎化が著しいです。今5,300人の人口がありまして、この13年で毎年100人ずつ人口が減っています。下津井を除く児島地区は、毎年400人、児島全体で500人なんですけど、下津井だけで100人減っている。激しいです。倉敷市自体が西日本で大きな都市ですし、工業出荷額も大阪と争うくらいですから、非常に大都市なんですけど下津井地区だけで言うと、いわゆるへき地に近いような状況にあるので、普通は地域おこし協力隊は県北の美作だとか、他の地域で活用されているんですけど、こういう所でも活用する権利があるんじゃないかなと思うんです。勿論地域の者が力を合わせて頑張るといのが大前提なんですけれど、そういった刺激を受けるのも一つの援助になるかなと思っております。

市長

今の地域おこし協力隊ということを言われました。これは何かしらと思われる方も結構いらっしゃるかと思しますので、ちょっと説明してみたいと思えます。これは国の総務省が地域の色んな町おこし、主には県北の方、限界集落とかの所に市町村が公募をして、都会の方から1年から3年の間、その場所に住んで色んな町おこしをやってくださいということ、その間に必要な人件費など100万円とか200万円くらいですけど、国が補助金

を出してその町おこしのために色々活動をしてくれる人について援助、支援をしましょうという仕組みでございます。

倉敷市ではその仕組みは使ったことはないです。さっきも言いましたけれど、この仕組みはどちらかというと、過疎の山村という所が対象のような元々仕組みになっているので、倉敷市では今まで考えたことがありませんのが現実です。と言って下津井も毎年100人も減っている、限界集落の山の中とかじゃなかったら対象にならないというわけではないと思うので、そのことを考えることも可能かなと思いますけれど、それで何をやるかが重要だと思います。この下津井の児島の町おこしのことについて、ここは県の町並み保存地区に指定をされており、町並みの保存または改修の方で皆さんと市と一緒にあって、今のところどんどん進んでいるわけではないんですが、何軒かずつという形で改修をしていただいたり、町並みの保存をしてきているわけですけど、その地域おこし協力隊、どういのを考えたりにしていますか、皆さんのイメージがわくのではないかと思います。

参加者 A さん

私どもが今、活動の準備をしているんですが、その中の一つは空家がたくさんあるので、そこに遠くから移住してくる人を是非連れてくる橋渡しになって欲しいということも言われています。もう一つは海産物が、以前とは減っているとは言え、いくらかまだありますので、それを使った観光も含めた、例えば漁師体験と称して、沖に行って帰ってそこで食べるとか。魚自体ではなかなか売り上げが上がらないので、人を相手に仕事をするそういった空間、もしくはそれを含めた新しいブランド、元々下津井産というのはブランドですが、それを含めたパッケージで新たに売っていくというのができるんじゃないかなと思っています。と言いますのは、もう何十年後かにはこういうふうにどんどん過疎になる地域がたくさん全国で出てくるのが見えています。ある意味、下津井はそれを先に行っているんで、先に行った地域で何かしら実績を上げると周りからも評価されて、市長も評価されるんじゃないかなと思います。

参加者 B さん

生まれも育ちも下津井ですが、今は他地区に住んでいます。初めは母の面倒を見るために下津井に通っていたんですが、あまりにも過疎がひどく、お年寄りの随分寂しそうな姿ばかりが目について、私にできることからやってみようと思って。まず漁師さんに声をかけて、ワカメで町おこしをしようと思って。素干しワカメと言えば下津井ワカメと山陰の板ワカメだけ。あとはみんな加工してしまうんです。茹でてしまえば色が飛ばないし、もつ。素干しワカメは漁師さんが海からあげたままを干す。ミネラル分、香りともに優れていまして、全国的にも珍しいワカメです。昔ながらの海のミネラルたっぷりの香りの良い素干しワカメを守ろうと思って、3年前に起業しました。

それと、あかね会を平成23年に立ち上げました。下津井小学校の同級の仲間が中心で、それに賛同していただける方で、20人くらいの会員がいます。趣旨は下津井の素晴らしい自然、誇らしい歴史、文化、温かい人情の良さをもっと引き出して、下津井から出ていかれた方が帰られても、ホッとできるまち、他地区から下津井へ来られた方がふっと故郷を感じられるまち、観光客でも家族のように温かく受け入れたいなと私は考えています。

そこで市長にお尋ね1件と、お願いが1件あるんです。お尋ねは、最近聞くのですが、

塩生の沖を掘る，砂利をとる工事があるらしい。それを堅場の沖に捨てる計画があるらしいと。それは外から来ていくら素晴らしい景観といっても，そんな自然破壊が起こっているのでは感動を騙すことになります。絶対これ以上瀬戸内海を荒らさないでほしい。お願いは，むかし下津井回船問屋がありますが，地域の人のためにあまり機能していないように思います。もっと地域の人に開放して，地域の人同士あるいは他地区から来られた人との触れ合いの場として，十分機能するように下津井の地区の方が運営できる，その思いのある方がそこを運営できるように変えていきたいなと思っています。

市長

塩生の沖の砂利がどこへと言われましたか。（堅場へ）初めて聞いたので調べてみます。

【調べた結果】

- ・塩生の沖は，大型船に対応できるようにするために，国の事業として，水深を深くする航路浚渫を行う予定です。
- ・堅場の沖は，漁場環境修復のために，国の事業として，海砂利採取で荒れた海底に砂を入れる実証実験を行っています。

参加者 B さん

私たちが敬愛している角田直一先生が，由加山がゴルフ場に全部買われていった時に，50年前ですけれど，「ちょっと待て。由加山は動植物の宝庫である。そんな所に，そんなものをつくる間には，青少年の育成施設をつくれ」と言って，由加の少年自然の家ができたんです。これからの子供たちのためにも，是非ありのままの自然をおいとおもってもらいたいと思います。

市長

自然を守るということは私もその通りだと思いますし，国立公園ですので，環境破壊みたいなものは元々基準が決まっているから，そうはできないと。

ワカメの素干しの件は，活動していただき大変ありがたく思います。ワカメの素干しは下津井では素干しで売って。（昔は。今は両方です。）生ワカメを素干しにして，それを土産品で出せる。出雲と下津井だけですか，もっとPRした方がいいですね。普通にスーパーマーケットとかではあまり売ってないんですね。

下津井回船問屋のお話をいただきました。駐車場を先般ちょっと広げまして，そうは言っても観光に来られる方が前よりは増えて，車の大きいのが近くに止められないので，バスで来たくてもなかなか来られないと伺ってまして，広げるといことにいたしました。それでもまだまだ活用されていないということなんですが，先ほども言われていました町並みの保存とか活用，これをもっと前に進めていくということが，下津井のまちづくりのこれからは重要じゃないかと私は思っております。と言ってこれは市だけでできることではなくて，皆でどうやるか，さっき言われたように新しい人が来て，色んな知恵を使ったりとかということもあると思うんですけど。

一方で人口が5300人が毎年100人位減っているということで，我々の地区でも深

刻に考えないといけないと思います。それから若い人が少なくて、活気が少ないということがあります。これをどうすればいいのかということです。前回伺った時に、児島でボランティアガイドを立ち上げるのを検討していますとくださった方がいらっやって、それでそこから1年半ぐらい、去年から児島地区で観光ガイドのボランティアガイドさんが立ち上がり、色んなご案内をさせていただいております。ちょうど玉島でも、そういう動きも進んできています。例えば倉敷の美観地区、林源十郎商店とか、色んなお店とか、あそこは密集していて伝統的建造物群保存地区ということで、昔から非常に規制が厳しかったんですけども、その分観光客も来ていたということもあるんですが、その時に外国人の方が特に言われるのは、日本の昔からの風景に自分たちは興味があるんですと言われます。今回、私もびっくりしたんですけど、その方は日本に初めて来て、京都と倉敷だけ来られました。その時に京都に来て、勿論金閣寺とかいろいろ見たんですけど、ちょっとがっかりしたと言われたのです。どうしてですかと言ったら、大きな観光地ではあるけれども、自分がイメージしていた日本の町並みが京都にはなかった。それで倉敷に来て、その時は美観地区に連れて行きまして案内したんですけど、そうしたらこれが自分が思っていた日本のイメージですと言われました。それから児島の繊維産業の見学に来てもらったんですけども、その時に中山のトンネルの所から来てもらって、その真正面に海が見えて、のどかな海、町並みを色々見られて、これが自分がイメージしていた日本ですと言われたんです。我々が本当に普通に思っている自分の町並み、町を少しもうちょっと変えていけば、時折りしも2020年にはオリンピックもあります。オリンピックが決まって、今から6年間ありますけれども、全世界のオリンピックが決まって開催までの期間に、外国人の観光客の方がどこでも増えるらしいです。大体2倍ぐらい外国の方が来られる頻度が増えるそうなんです。我々としては日本だから京都にたくさん来ると思うんですけども、それと私たちの町並みとか、日本のこういう海の風景とかはなかなかどこにでもないですから、勿論美観地区もそうですし、玉島もそうですけど、町並みの活用とか、今言っただきました人情ですね、ここへ来て色々な人と触れ合った。それを何とか皆さんと一緒に、前に進められないかなと思っているわけです。さっき言われた地域おこし協力隊であったり、一方で私が地域おこし協力隊で思っているのが、期限が決まっています1年から3年位です。3年だけしましようという制度なので、私が少し聞いている話では、その間こちらに来て住むけれど、終わったらまた帰っちゃうという人も多いと聞いていますので、そのあたりを私もちょっと勉強不足なのでよく調べてみたいと思います。とにかく下津井の町並みの所というのは、倉敷市としても非常に大切な場所だと思っておりますので、御協力をお願いしたいと思います。

参加者Cさん

同じようにあかね会を立ち上げて一緒に活動しているものです。家は岡山なんですけど、40年間児島で仕事をしていました。その中で下津井という所は、景観も勿論ですけど、下津井節の保存会の方、下津井電鉄を守る会とか、色んな一つ一つ頑張って次へ繋げていこうという方たちが、たくさんおられます。下津井には東荻野、西荻野というのがあって、山高といって大正9年にできた被服工場、学生服を作っていた中西さんというお家が、美術館にはなっていないんですけど、大きなお家が今もあります。角田直一さんが作られた下津井懐古という写真集というか本の中にも西荻野にある山高さんの方がたくさん下津

井の歴史を写真に残されています。今までいろんな方が下津井について、頑張っって次に繋げていこうという所、やっぱり観光だと思っうんですけど、大事にしていきたくと思っうんです。まだまだ杓井戸、寺井戸、色んな井戸が残っておりますし、東荻野の堀も崩れてきておりますし、西荻野の中西の大きなお家も壁が取れたりして 本当に傷んできております。もっともっつと下津井の良さ、児島の歴史の原点だと思っうんです。そういうところをPRしていただいて、勿論そこのところで私たちも協力していきたくと思っうので、何か具体的に写真館をつくるとか、角田直一さんの生家もありますから、そこを角田直一さんの色んな関連したものがあると思っうんです。魅力が次に繋がってないと思っうので、そこのところを繋げていっってほしいなと。私たちも頑張りますので、協力してやっってください。

参加者Dさん

瀬戸内海国立公園が制定されて80年ということで、地域の人も大変盛り上がっって、市・県の方も、PRとか尽くされてると思っうんですが、これを機に、今問題になっています世界遺産、これへの登録を検討してもらいたく。大きな話で申し訳ないんですが。PRが随分広がるんじゃないかということで。要件もかなり難しいんじゃないかと思っいますけど、ぜひ登録を。PRのために、検討をしていただきたらと思っいます。

市長

ありがとうございました。世界遺産の話が出ました。世界遺産のことは、私も常に思っいます。文部科学省で、最近の指定の傾向とかを、聞いたりしているんですけど、最近なかなか一つだけでの指定というのは、平泉とかも1個だけでは登録されないようになって、非常に厳しいということは聞っいています。瀬戸内海地域の自然遺産だったら、いけるんじゃないかと思っうんですけど、そのためには倉敷市だけじゃなくて、岡山県、広島県、それから高松とか、沿岸のところに協力してもらわないとできないと思っうんです。一つの地域だけだったら、難しい傾向になってきてはいますが、広くみんなが協力して、きれいな美しい自然、世界自然遺産とかだったら、いけるんじゃないかなと思っうんですが、どうでしょうか。

参加者Dさん

広い範囲での制定もいいんですけども人工の建造物である瀬戸大橋、これは莫大な国家予算を使っって、風景とも瀬戸大橋はよくマッチしてるんじゃないかと。広い話でもいいんですけど、瀬戸大橋を含めた瀬戸内海、ということでの人工建造物を自然とマッチしてるんで。だから世界遺産として残していきたく。瀬戸大橋をぜひ入れてほしい。

市長

しまなみ海道もあります。

参加者Dさん

しまなみ海道は、規模が小さい。瀬戸大橋は最初の玄関、瀬戸内海での初めての橋ですし、鉄道の併用橋でもありますし、ぜひその辺をPRしていただきたくと思っいます。

参加者 E さん

隣の菰池から来た者です。先ほどの世界遺産のこともそうですけど、私も同感です。鷺羽山から見た瀬戸内海の眺望、それからちょっと外れるけど、王子が岳から見た眺望、これは本当に世界遺産に匹敵するような、素晴らしい景観だと思います。それはしまなみ海道もいい、なんですけど、私はやっぱり、遊園地とか、鷺羽山と王子が岳から見た風景、景観はもう日本一、世界一ぐらいの感じがするんです。

私自身は野菜を作ったり、鯛とか下津井の手長ダコを二次加工して販売する、ということをやっております。手長ダコを干すところに、下津井に土地を求めたんですけど。倉敷市とか岡山は、大阪から船を使って、産業廃棄物を持ってきて、至る所が産廃捨て場になっております。池があって、小高い山があり、道路が完備して、すぐ捨てやすいんですね。谷間に捨てるとその下に、必ず農業用水の池があります。池から農業用水を使って、海に出るんです。そうしたら途中の畑の野菜も、ちょっと危ういものもあるし、下津井のお魚も。私、瀬戸の鯛みそというのを作ってるんですけど、同じ瀬戸大橋の下でも、とれた場所によって、おいしい鯛とおいしくない鯛があるんです。

そのほかに、人口減少についてですけど、児島はすごく繊維が発展していて、会社がいっぱいあるにも関わらず、みなさん、世界に向けて行ってしまいます。地元の若者たちは、仕事がなくって、お給料が安いし、よそへ行ってしまいます。人口減少に歯止めがきかないという現状です。どうして力のある企業さんが海外へ行ってしまうのかなど。法人税が高い、給料が高い、所得税が高い。地元での産業が立ちゆかなくなって、倉敷だけでなく日本全体が、世界へ向けて行っている。これを何とか考えないといけなかなど。

それと、2,000㎡の畑をしてないと、それも農業委員に届けてないと、わずかな畑でも買うこともできない。それで私、二次加工をする畑をなかなか求められないで困ってるんです。一般の主婦が少し畑をしたいと思っても、畑が買えない現状があります。

市長

ありがとうございました。Cさんも言って下さったと思うんですけど、やっぱり地元で以前と比べて仕事がないので、どうしても若い人が外へ行ってしまうというのがあるんじゃないかと思います。地元の活性化という面で、最初がどういうきっかけになるのかというのがあるかと思うんですけど。色んな取り組みをしたりして、他の地域の人とか、外国の方たちも目が向いてきて、物をお土産で買われる方も多くなって、段々いい評判が。元々いい物なわけですから。目についたら益々評判がよくなって。そうしたら、こちらの仕事ももっと増えるようになり、そして若い人が地元で働こうかということに。そういう良い循環になってくれば一番いいんじゃないかと思ってます。

それで一つには児島のジーンズストリートも、今産業の皆さんが一生懸命がんばってくださって。元々は下請けとかで、自分の名前が出ないということが多かったんです。それを自分のブランドで作って、下請けの時よりも給料が上がるということで、味野商店街も非常に活発化してきております。下津井の地域で、漁業とか農業加工品とか、さっき言われた美術芸術、そういうものが活用できないかとかと思っております。

参加者 F さん

クリエイターズラウンジというチームを作って、下津井、このエリアを良くしていきたい

いと思っているメンバーの一人です。僕はデザインの仕事をしていますけど、チームには陶芸家がいったり、写真家、建築、様々なジャンルの人たちが集まって、いろんな方向性から良くできないかと思ってます。今回は2点あります。まず1点は、PRにはすごく気を付けないといけないという点です。もう1点は田之浦パークセンター。あそこ、すごくいいところなので、何とか活用方法がないかなと。

PRに気をつけるというのは、海外では、兎島はものすごく注目されていて、先日モスペインの有志がスペインの雑誌を読んで、その人は革職人の会社をしている人なんですけど、わざわざ兎島に工場見学に来て。アメリカの友達とかは向こうでは、ロスアンゼルスですけど、日本のデニムがすごく流行っている。向こうのショップとかに行くと、日本の扱ってるんだとすごく得意気に言うんですね。そこで、何で兎島のデニムだ、って言えなかったのかと。すごくもったいない。もし付けられたら、すごいPRになると思うんです。何か、そういうPRの仕方をしていきたいなと。で、僕は岡山市出身なんですけど、ここにきてやっぱり皆さん言われるように、景色もすごくいいですし、食べ物もおいしいし。ただPRがうまくできてない。自分たちが満足したものを、これおいしいから食べてっていうんじゃなくて、こういう理由でおいしいんだっていうのと全然違うと思うんです。また歴史背景のところをうまく説明してあげると、もっと効果的にアピールできると思うんですよ。だから、下津井というまちは、あまり開発されていない、昔のままで残っているの、さっきの京都の話じゃないですけど、昔ながらの町並みが見れますよ、ということで、もしかしたら、外国のお客様とかも、誘致できるかも。その辺をちょっと気をつけて、まちの魅力を探って、みんなでいい方向でできたらと思っています。観光客があんまりいないということですけど、結構来ています。回船問屋とか、結構来てるんです。あそこに行ってすぐ帰っちゃう。(それしかPRされてない。) あそこもかなり作られたものなので、自然の、本当の魅力というのを伝えきれていないと思うんです。そこで時間をもう少しあそこで過ごしてもらおうように、例えばカフェであったり、買い物ができるところであったりというのがあれば、もっと滞在時間を増やせるんじゃないかと思うんです。

何かいい場所がないかと僕らも探してたんですけど、なかなかない。他の成功している尾道とかの例を聞くと、商店街の、町中の空いてところの家賃を15,000円とかで貸してるらしい。勝山のあたりでは無償で貸してるという話があるので、できればこのまちでも、行政の力を、皆さんの力をお借りしながら、なるべく安くしてもらって、若い方がとりあえずやってみようかという気になってもらえたら、すごくいいスタートになると思うんです。

橋の下のパークセンター、すごくいいところで、今日も行ってきたんですけど、何も無い状態なんです。すごくもったいない。一旦僕らに任せていただいて、活動ができないかなと思います。さっきちょっと港で時間を過ごしたんですけど、女性がドライブして港に来て、この人はここに住んでないとすぐ分かったんですけど、降りて、写真を撮って、すぐ帰っちゃったんですよ。もったいないなあと思いますね。

市長

パークセンターは、今は地元の方の集会とかに使ってくださってるんですかね。勝山とかのまちの中のカフェとか、お土産屋さんとか、そういうものができればいいですね。

参加者 G さん

今までののは大体地域おこしということで、力のある、光のある発言で、皆質問されていましたが、私は福祉関係を。私の住んでる町は、ちょうど回船問屋の隣です。独居老人の介護をしています。35世帯あるんだけど、半分の17世帯が独居です。みなさん仲良くしてたんですけど、外へ出るのが大変。こういう人を施設というか、老人ホームというても、なかなか施設が足りません。

学校の問題もあります。統合できないか、小学校を。両方足しても生徒が180人。中学校でも120人しかおらん。小中学校合わせて300人足らず。非常に立派な施設です。中学校の校舎も小学校も。それを何か、福祉関係に使えないか。学校を統合したらいい、私個人の意見です。昔、小学校は1000人もおったんですよ。それを通ってたんですよ、田之浦の東小学校へ。歩くことによって、皆元気になるんですよ。今、熱中症になって倒れるんですよ、歩いてないから。そういうことで、小学校も中学校も統合するか。変わってきます。世の中変わるんです。

市長

先生が言われるようにですね、あまり小さくなり子どもが少ないと、子どもの教育にもよくないというのがあるんですね、教育が。それを非常に心配はしてるんです。

参加者 G さん

でも子どもが減るということ、この人口問題、創成会議のそれを読んでいたら、なるほどと思います。下津井はもう、20年前から始まってます。この問題が。これから年を取っていく人は、一人になるんだから、独居になる、寂しくなる。それを、自分でみんなが考えて、力を合わせてやらなきゃいけないと思っている。考えなきゃいけない。下津井はみんな出ていきます。倉敷市はいいけれど、倉敷市の周辺はみんな細くなる。

市長

確かに人口は減ってるとは思いますが、ただ、希望がないわけじゃないと私は思っています。やっぱり注目を浴びて、いいものがたくさんあるわけですから。それで注目したら、さっきのように、スペインからもわざわざ来るわけですから。それを、みんなでもうちょっと出し方を。子どもがどんどん増えるというのは難しいと思いますけど。

参加者 G さん

老人施設ができると、女性の働き場所もたくさんできる。だからそこも考えてください。

参加者 H さん

吹上の者です。このたび消防車が新しくなりました。ありがとうございます。消防車なんですけど、今、四柱神社の敷地の中にあります。これが緊急時に、今言われている大地震が起きた時には、玉垣なんか倒壊して、おそらく出動できないんじゃないかと。ここに写真を持ってきたんですけど、非常に狭いんです、そこから出るのに。出る道の横にも古い家があります。中学の上の方に移動させるという検討を行ったと聞いてますけど、それが実現せずに、今、狭いところを出入りしています。できればずっと動ける道、それ

から今、震災が起きると、道が狭いので消防車が出動できないかと思えます。そういうことで、できればそのお宮から出ていただくと、そこがまた広場になるので、新しいアイデアができないかと思って。吹上地区に使えるような公園とか、今言われるようなお店をするとか、というようなことが、年をとっていくと皆さんでできるような施設が考えられるのかなと、思ったりしています。

市長

調べてみます。でも、消防車を入れる時に検討したんですかね。

参加者 H さん

ええ、聞いています、そういうふうに。

参加者 I さん

下津井の者です。いろいろ、先ほどから若い人、地域おこしをやってくださるといことで、心強いことですが、私ども昭和60年に、下津井を考える会を立ち上げました。それから下津井西界限とか、魚島フェスティバル、城山桜まつりとか、いろんなことをやってきたんです。もう我々は、年が行きました。今後、若い人に預けてやってもらいたいと思ってるんですが、若い人が下津井には少ないんですね。だからもうちょっとこう、何をするにしても、お金もかかるし、人手もかかる、ということで、まあ、前は自分達が出し合ったりしてやってたんですけど、それもこの年になると、思うようにできません。

先日、下津井で、「(イブニングニュース)どうにかならぬか」という番組が、RSKか、山陽放送かでそれをやりまして、その人たちと一緒に歩いたんです。ポウリング場から上がったトンネルの前に、看板があるんです。地域に入る矢印。そこに右へ行って下津井というのはわかるんです。左へ行ったら回船問屋へ。回船問屋も下津井も一緒じゃないかと思うんですけど。トンネル過ぎて右へ入ると下津井ですけど遠いんです。それよりか、やっぱり田之浦の方へ行って、下津井へ入って来て、回船問屋か。その看板が、どうにかならぬか、ということですね。

もう一つは、鷲羽山ハイランドへ行くあの下にレインボータワーというのがあります。あれが、無用の長物です。風が吹くと、ワイヤーがパタンパタン大きな音をたてるんです。そこらのホテルに泊まると。夜に。それで、なんとかならぬかということ。

それからもう一つが、城山の4月の初めに、あそこで毎年桜祭りをやるとるんです。途中で止まるとるんです。山陽放送の方から、それを取材に来られた。取材に来て、下津井城址から沖を見たら、ものすごいきれいな所なんです、景観が。城山からの。その海が見えないんですよ、雑木が生えて。それで、撮影もできなくて、もう石垣とか階段とか、そういったとこだけ取材して帰ったんです。桜どころじゃなかったです。桜から瀬戸内海沖の海を入れて、写真とかを撮ってもらいたかったんですけど、それを撮れないんです。そういうふうに雑木で。桜祭りをもうやめたから、木はもう切ってくれないのかと。

市長

いえいえ、そんなことはないんですけど。あれは、管理はうちでしたかね。

参加者 I さん

桜を見学に来る人もかなりいるんですよ。桜を見ても沖は見えませんね。それをなんとかしてもらいたい。

それからもう一つはね、ボウリング場からトンネルを抜けて、鷲羽山へ行くライン。その道が、もう雑木が道の方へ出てきとるわけです。そうしたら、観光バスがラインを超すんです。それで市にお願いしても、なかなかにつちもさっちもいかんということで、ある人が、あの道は県道だと。ということで、では県に掛け合ってくれといっても、なかなか掛け合ってくれなかった。ある人に頼んで、直接県民局の方へ言ってくださった。そうすると、明るる日に県民局から来て、すぐ切ってくれた、また、次の枝が増えてきて、生えてきた。ちょうど田之浦の方。バスがセンターラインを越えて、出るんです。こっちから行きようたら、危ないんです、それもあるし。本当に、バスが枝をこすりながら、枝が折れるところが見える。これを何とかしてもらいたいという、この4点を、山陽放送に言われてずっと回ったんですけど。できたら、市の方で。

市長

市でできるところは、できますけど。よく県とも相談します。

参加者 J さん

私は30年前から毎晩、夢にまで見ているんですけど、下津井城を復元したいと思います。そこで、国民宿舎をしてください。海の駅もしてください。そしたら、国民宿舎になるんだったら、それが一番良いんですけれど、皆が働くところができると思います。そこで下津井節の大会とか、色んなイベントができると思います。お願いします。

市長

大変壮大な話題で、下津井城の復元ですね。まず石垣を、今、結構草とかが生えていますね。

参加者 J さん

現存はないんですけれども。抜取溝というのがあるので、1メートルくらいを掘れば、抜取溝というのが出てきますので、復元はできます。そして菩提樹は天城に1つ、菩提樹は5つあるんですけれど、あそこにいけば何を食べたか、色んな事のメニューなんかも残っています。山門とかもそれぞれのお寺が保存しています。だから、検討してください。県庁にも言ってます。

市長

文化財保護課に良く研究してもらおうようにいたします。大きなことなので、すぐには難しいと思いますが。ありがとうございました。

参加者 K さん

西脇自治会のものです。3年ほど前に、下津井駅の公園化ということで、市長あてに要望書を書かせていただいたり、他の人たちの協力も得て、下津井駅周辺の公園ができました。

た。3年目になろうかということでございます。

その後、昨年度も継続して、今の電車を置いている所の公園化のお願いに何回か児島支所に行きました。ただその後、どういう経過になっているのかわかりませんが1つ。ただ正直に私としましても地元です。火・水・木曜日、下津井駅周辺の草刈りをしました。もっと広くなれば、もっと私の負担がかかるかなというところもございます。下津井駅の今後がどうなるのか、それをお聞かせいただければ、ありがたいなと思います。ただ、下電さんの持ち物ですから、そういう兼ね合いがあるということもわかります。

瀬戸大橋架橋記念館多目的広場、私ども下津井オーシャンズが利用させていただいております。皆さんの協力で、草刈り・管理・維持をしております。野球に関して、1つお願いというかご相談なんですけど、今、倉敷地区学童少年野球が32チームあります。私どもが実際は33番目のチームなんですけど、子どもが少子化ということで、ほかのチームは若干少なくなっております。お願いとしまして、学童少年野球が主催をして、教育委員会が動いていただければ、校長が動きやすいかなと。校長が動けば倉敷地区の小学校全校にパンフレットとか配って、合同の体験入団みたいな形が取れるのではないかなと。今現在、私一人が考えております。そういう動きができれば、日本の文化としても野球を継続できるんじゃないかと構想を持っております。是非、市長のお力添えをいただければ、ありがたいかなと考えております。どうかよろしくお願いします。

市長

野球のほうは、入る子どもさんがもっと増えたほうがいいわけですね。勿論、学校のほうもスポーツの振興を進めておりますので、教育委員会も今後、野球だけではなかなか言いにくいんですが、子どもたちの体力の面でスポーツ振興をしっかりとるように頑張りたいと思います。

下津井駅の関係は大変お世話になっておりまして、ありがとうございます。さっき言われましたように、下電さんの持ち物ということもあって、そこのお話が進んでいかないと、なかなか難しい状況ですけど、今から3年前が下電さんの100周年で、その時に向けて結構、色々下電さんからもお話もあって、ある一定程度、公園だとか進んだ状況なんですけど、その後あまり進まないような状況に、今なっているのが現実でございます。またこちらのほうからも下電さんに呼びかけをして、今後の方向性について地元の皆さんともよく相談して、やっぱり良いものになっていったらよいと思っていますので、また何年か経っていますので、会話をしてみたいと思います。

参加者 Kさん

下津井駅周辺は観光客の人が少しですけど増えています。自転車で風の道とか、家族でこられるとか、結構遠方、埼玉・茨城とか関東のほうからも来られて、増えています。

市長

ホームページとかで、自転車でこういう良いところが見れますよというのを出していたりとかいうので、みられていたり。サイクリングもブームですかね。自転車で。頑張りたいと思います。ありがとうございます。

参加者Lさん

僕たちは荻野美術館をご厚意によって借りるようになって、そこから中心に色々考えていこうと、相談しています。それでどうしても皆、仕事を他に持っていて、それでやりつつありますので、行政の支援がないとどうしても難しいなという点があるんです。そういった場合、行政としてどのような支援が受けれるのかというのをお聞きしたいと思います。

市長

荻野美術館の活用、1つにはこれはまだ使い方について検討しているんですけども、倉敷市のほうで、去年平成25年度に国のほうから、補助金をいただきまして、まちづくり基金というのを作ったんです。これは基金なので、基金の運用益で、例えばソフト事業などをしていきたいと思いますというのが結構基本になるかと思うんです。その基金自体が1億何千万で、その運用益が1年に100万円そんなもんです。それでその基金を倉敷市内の色々なまちづくりとか、活躍をしてくださる皆さんに公募して、どういうまちおこし活動とかを一緒にしてくれますかと、勿論100%というのは難しいと思いますけれど。まだ要綱を作っている状況なんですけれども、公募とかしまして、さきの地域おこし協力隊とかもよく調べてみたいと思うんですが、色々ないくつかの方法を使って、まちづくりをしていただけるような色々な団体の皆さんと一緒に、色々できないかとは思っているんです。勿論、さっきの基金の使い方についてもできましたら、お知らせしたいと思います。

本当に良いものがたくさんあります。荻野美術館は場所としてもすばらしい所ですので、その町並みの保存だけじゃなく、活用していければと思います。そのために、皆さんのご協力が一番大事だと思っております。

今日、まちづくり、まちおこしのことについて、皆さんが熱い思いを持っていただいている、若い皆さんも色々頑張って応援していこうと思っております。大変心強く思いました。今、盛り上がって皆さんが関心を持ってくださって、外からの目も非常に向いてきているように思いますので、究極には世界遺産にいければ私も一番良いと思っております。そういう機会を捉えて、これは市がするのか、若しくは色々な団体の皆さんがまちおこしの寄合いをしていただいて、お店を出したいという若い方がいらっしゃったら、じゃあ貸してくださる方がいらっしゃるのかとか、そういうのを皆さんからお聞きして、具体的に話が前に進んでいくようになれば、大変ありがたいなと思っております。本当に下津井の町というのは倉敷市にとって、沿岸部の非常に大切な地域だと思っておりますので、また是非、市のほうからも皆さんに、対話をして色々な可能性を探っていきたいと思っておりますし、皆さんからも、アイデアをお寄せいただければ大変ありがたいなと思っております。今日は長時間にわたりまして良いご意見をいただき、心から感謝を申し上げます。どうもありがとうございました。